

京都大学人文科学研究所共同研究実績・活動報告書

(3 年計画の 2 年目)

1. 研究課題

チベット文明の継承と史的展開の諸相

Aspects of Historical Development and Transmission of the Tibetan Civilization

2. 研究代表者氏名

池田 巧

IKEDA Takumi

3. 研究期間

2018 年 04 月 - 2021 年 03 月 (2 年度目)

4. 研究目的

チベット文明は、周辺諸地域との歴史的交流を通じて、宗教・儀礼・言語・社会制度などを広く浸透させ、独自の文明圏を築きあげた。本共同研究班では、交流史の諸相に関する研究成果を学際的に集積し、チベット文明の史的展開を多角的に分析して、ユーラシア世界におけるその位置づけの再評価を行なう。7 世紀以降、チベット・ヒマラヤ地域は周囲の先行文明の影響を受けつつ、独自の文明を展開させてきた。11～12 世紀に仏教を完全に消化して以降、より強固となったチベット文明は周辺文化と交流を繰り返しつつモンゴル～東アジアにその影響力を伸張させた。さらに 20 世紀半ば以降もその発信力は欧米社会までにも影響を与えている。このような発信力と柔軟性をチベット文明は如何に獲得したのか、また周辺諸文明とどのように相克・調和してきたのか。その具体像を探るべく、多様な視点からチベット文明の諸相と継承を学際的に分析する。

From the 7th century, the Tibetan civilization—its unique religions, rituals, languages, and social systems—gradually permeated the neighboring cultural areas via direct communications and trade. Our project compiles the results of interdisciplinary research carried out on the inter-cultural communication among these areas, reviewing and evaluating the aspects of the historical development and expansion of the Tibetan civilization in the Eurasian world. The Tibeto-Himalayan area, while influenced by preceding Asian civilizations, has developed an individual civilization. The Tibet civilization grew stronger after assimilating Buddhism in the 11-12th century, and by communicating with the neighboring

cultural areas, it spread through Mongol to East Asia; Moreover, its influence proved effective even in the modern European world of the late 20th century. How did the Tibetan civilization maintain such power and flexibility? How did the Tibetan civilization come in conflict and how did it attain reconciliation with neighboring civilizations? And how have elements of the Tibetan civilization been transmitted in modern society, even after the country itself ceased to exist? To find answers to such questions, we shall analyze the historical aspects and transmission of the Tibetan civilization from various academic angles.

5. 本年度の研究実施状況

●[研究会と研究報告]本年度は合計で4回の研究会と4回の編集会議を行うことができた。歴史学、宗教学、文化人類学、言語学の各分野から、古代～現在にいたるまでのチベット文化の諸相について最先端の研究動向を踏まえたうえで、水準を維持しながらも現在までの研究で何がどこまで明らかにされてきたかを平易に解説する原稿を分担で執筆し、研究会では分野横断的に多角的な検討を加え、異なる分野からの視点による学際的な情報提供と意見交換を活発に行なった。●[概論の編集]本研究班の成果をまとめた概論『チベットの歴史と社会』(仮題)の編集会議を行ない、研究期間内の刊行に向けて編集作業を進めた。

6. 研究成果の概要

なし

7. 本年度の研究実施内容

2019-04-20 チベットの地図と地理情報について チベットの地図と地理情報について 発表者 池田 巧

2019-05-18 編集会議 発表者

2019-06-15 概論:ボン教の章／方言の章の検討 発表者

2019-09-21 概論:改訂された章の検討と編集会議 発表者

2019-11-26 概論:改訂された章の検討と編集会議 発表者

2019-12-14 概論:改訂された章の検討と編集会議 発表者

2020-01-18 概論:改訂された章の検討と編集会議 発表者

2020-02-15 概論:改訂された章の検討と編集会議 発表者

2020-03-14 概論:改訂された章の検討と編集会議 発表者

8. 共同研究会に関連した公表実績

なし

9. 研究班員

所内

池田 巧、稲葉 穰、中西竜也

学内

熊谷誠慈(こころの未来研究センター)、マルク=アンリ・デロッシュ(総合生存学館)、安田章紀(こころの未来研究センター)、長岡 慶(アジア・アフリカ地域研究科)

学外

武内紹人(神戸市外国語大学)、西田 愛(神戸市外国語大学)、大川謙作(日本大学)、別所裕介(駒澤大学)、星 泉(東京外国語大学)、根本裕史(広島大学)、池尻陽子(関西大学)、海老原志穂(東京外国語大学)、山本明志(大阪国際大学)、小西賢吾(金沢星稜大学)、山本達也(静岡大学)、小野田俊蔵(佛教大学)、三宅伸一郎(大谷大学)、小松原ゆり(明治大学)、村上大輔(駿河台大学)、井内真帆(神戸市外国語大学)、加納和雄(駒澤大学)、大羽恵美(金沢大学)、大西啓司(龍谷大学)、黒田有誌(龍谷大学)、岩尾一史(龍谷大学)

10. 共同利用・共同研究の参加状況

区分	機関数	参加人数				延べ人数			
		総計	外国人	大学院生	若手研究者	総計	外国人	大学院生	若手研究者
所内	1	3 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	8 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)
学内	2	3 (0)	1 (0)	0 (0)	0 (0)	1 (1)	0 (0)	0 (0)	0 (0)
国立大学	5	6 (3)	0 (0)	1 (1)	3 (1)	4 (4)	0 (0)	0 (0)	0 (0)
公立大学	1	3 (2)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	2 (2)	0 (0)	0 (0)	0 (0)
私立大学	10	10 (2)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	17 (1)	0 (0)	0 (0)	0 (0)
大学共同利用機関法人	0	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	4 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)
独立行政法人等公的研究機関	0	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)
民間機関	0	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	8 (8)	0 (0)	0 (0)	0 (0)

外国機関	0	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)
その他	0	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)
計	19	25 (7)	1 (0)	1 (1)	3 (1)	44 (16)	0 (0)	0 (0)	0 (0)

※()内には、女性数を記載

11. 本年度 共同利用・共同研究を活用して発表された論文数
なし

12. 費目の 30%を超える大幅な変更があった場合の変更理由
なし

13. 次年度の研究実施計画
概論『チベットの歴史と社会』の編集と刊行

14. 次年度の経費

国内旅費	研究会参加費	開催回数 10 回 国内出張旅費(延べ 10 人)	支出予定額 (400,000 円)
	一般旅費	国内出張旅費(延べ 0 人)	支出予定額 (0)
海外旅費	渡航旅費	海外出張旅費(延べ 0 人)	支出予定額 (0)
	招聘旅費	招待人数(延べ 0 人)	支出予定額 (0)
謝金(講演謝金、研究協力謝金、その他の謝金)			支出予定額 (0)
消耗品等経費			支出予定額 (0)
その他			支出予定額 (0)
合計			400,000 円

15. 研究成果公表計画および今後の展開等

研究班での検証の結果は、学術論文集ではなく、チベット文明とヒマラヤ地域についてのこれまでの研究の蓄積と発展、そして最先端の研究成果をバランスよく配置した概論書として編集し、広く一般向けに出版したい。

